



鳥類の調査状況及び成果

常陸大宮市の市史編さんのため、2017年の4月から鳥類の調査を実施してきました。

2018年からは那珂川水系を調査しました。市内の17地点を選び、種類や数を毎月調査し、月変化の状況など鳥類の概要を把握しようとしたものです。この結果120種の鳥を確認することが出来ました。2018年度の詳しいデータは「常陸大宮市史研究第3号」で紹介します。その内の一部を紹介します。

鷺子山では、12月にアトリが100羽ほど群れる姿が見られました。この地区が冬鳥の越冬地として重要な地区となっていることを示しています。

花立自然公園では、2月にアオバトが見られました。冬季に南下してきたか、あるいは山林から海岸まで海水を飲みに行くという珍しい習性をもつこの鳥が、途中で一時立ち寄りしていたかと思われます。

チョウゲンボウは、12月に野口平の水田の上を飛び回り、ホバリングする姿が見られました。好物のネズミ類を狙っていたのでしょう。

私は、この3年ほどの調査で、常陸大宮市内の特に里地里山と言われる自然環境の豊かさに触れることができました。サシバなど貴重な種が普通にみられたり、川辺でカモの仲間を見ていると狐と顔を合わせたり、行くたびに新しい発見がありました。

今年度の録音による調査では、数が減少しているヨタカなどの鳴き声も確認できました。今後、得られたデータをまとめていきたいと考えています。



仲田 立 氏（茨城生物の会）
自然部会専門調査員



▲アトリ（鷺子地区）



▲アオバト（高部地区）



▲サシバ（小舟地区）



▲チョウゲンボウ（野口平地区）